

社会的課題解決の軌跡

クラレグループは、その歴史の中でたゆまぬ技術開発と市場開拓に努め、数々の先駆的な事業を立ち上げました。「世のため人のため、他人（ひと）のやれないことをやる」という使命に基づいて、自らの創意と努力により技術的課題を克服し生まれた、独創性の高い製品は社会に新たな価値を提供し、世界中で広く活用されています。

事業活動を通じた社会的課題の解決・経済発展への貢献のあゆみ

社会的課題の解決、経済発展に寄与する事業・製品の紹介

社会的課題と時代背景

1926～

レーヨンの事業化を目指して創立、国産初の合成繊維ビニロンと新事業の創出

1926年、クラレは化学繊維レーヨンの事業化を目的に「倉敷絹織」として岡山県倉敷市に誕生しました。1950年代には国産初の合成繊維ビニロンを世界で初めて事業化し、木綿に代わる合成繊維として生活物資・衣料品の充足に貢献しました。その後も、ポパール樹脂、人工皮革〈クラリーノ〉、EVOH樹脂〈エパール〉、イソプレ、歯科材料など新規事業を相次いで立ち上げ、事業活動を通じた社会的課題の解決と経済発展に貢献しました。

生活物資の充足・社会インフラ整備

- ◆ 太平洋戦争
- ◆ 重化学工業の発展
- ◆ 高度経済成長期
- ◆ オイルショック

1980～

合成繊維の高機能化

高強度、耐候性、耐薬品性など、合成繊維が持つ優位性に注目し、事業の多角化を図りました。1983年には健康被害をもたらす危険性があるアスベストの代替として、セメント補強用ビニロンを開発し、スイス・エターニット社と長期輸出契約を締結しました。その後も、液晶ポリマー繊維〈ベクトラン〉を開発し、新たに製品群に加えるなど、産業資材事業の総合力強化と市場開拓の加速化を図りました。

生活の利便性・快適性の向上

- ◆ プラザ合意
- ◆ 通信の自由化、国鉄の民営化
- ◆ エレクトロニクス産業の隆盛
- ◆ バブル経済

1990～

通信関連事業の拡大、化学品・樹脂事業の海外展開

インターネットや携帯電話の普及に伴い生活様式が変化していく中、通信の高速化に寄与する液晶ポリマーフィルム〈ベクスター〉を開発し、1999年には、パソコンや携帯電話などの電気・電子部品、自動車部品で大きな需要が見込まれる耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉を事業化しました。また、化学品・樹脂事業では高い製品力を背景に海外でも販売を増やし、市場シェアを拡大するとともに、グローバルでの生産体制を構築しました。

インターネットの普及・生活様式の変化

- ◆ バブル経済の終焉
- ◆ インターネット・携帯電話の普及
- ◆ 京都議定書の採択

社会的課題の解決、経済発展に寄与する事業・製品の紹介

社会的課題と時代背景

2000～

環境配慮製品の展開、M&Aを通じたビニルアセテート関連事業の拡大

世界的な環境問題への意識の高まりを受け、加硫ゴムや塩化ビニルの代替品として熱可塑性エラストマー〈セプトン〉の米国生産設備を完成させ、本格稼働を開始しました。また、ビニルアセテート関連事業は、海外M&Aを通じてバリューチェーンの強化および事業規模の拡大を推進しました。これらの施策により、クラレグループの独創的な技術・製品は世界中で広く活用され、海外売上高比率が飛躍的に伸長しました。

グローバル化・環境意識の高まり

- ◆ いざなぎ景気
- ◆ IT企業、ベンチャー企業の隆盛
- ◆ リーマン・ショック

2010～

自然環境・生活環境に貢献する事業・製品の拡大

継続的な海外M&Aやアライアンスを通じて、水と大気浄化に貢献する活性炭、物流の負荷軽減・フードロス削減に貢献するバイオマス由来のガスバリア材〈PLANTIC〉など、グローバルで自然環境・生活環境に貢献する事業・製品の拡大を図りました。

持続可能な社会に向けて

- ◆ 世界人口70億人を突破
- ◆ パリ協定
- ◆ SDGs国連採択
- ◆ 新型コロナウイルス感染拡大

2022～

「社会・環境価値」「経済的価値」を重視した事業ポートフォリオへ

「私たちの使命」のもと、持続的に成長するため、メガトレンドに沿って解決すべき社会的課題をターゲット領域として設定しました。「社会・環境価値」「経済的価値」の2軸で事業評価を行い、事業ポートフォリオの高度化を目指しています。水溶性ポリアルフィルム、EVOH樹脂〈エパール〉、炭素材料、歯科材料、高機能プラスチック、光学用ポリアルフィルムなどの事業に重点的に資源配分を行います。

社会的課題解決を成長のエンジンへ

国内・海外売上高の推移

